

(5月26日 定時社員総会)

挨拶

挨拶

会長
佐藤 廣 士



ご紹介をいただきました佐藤廣士でございます。

まず、本日、日本知的財産協会が2017年度の定時社員総会を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

当協会は純粹の民間団体として、財務的にもしっかりした基盤を持つに至り、日本を代表する企業をはじめとする多くの会員を誇る団体として、国内外の連携を深めながら、時代に即した知的財産戦略を打ち出してきました。これまでの活動やご尽力に対しまして、田中会長以下協会の皆様方に心より敬意を表するものであります。そして、私

がこのたび田中会長の後を受けまして、この日本知的財産協会の会長に選任されましたことは、誠に光栄であり、喜びとするところであります。ここで、私が平素、知的財産活動に関し、重要と考えている2つの視点について述べさせていただきます。

1つは、企業経営に資する知的財産活動です。

特許法をはじめとする知的財産権法には、知的財産の保護や活用を通じて、産業の発達に寄与する旨の法目的が明記されております。これを実現するためには、企業の経営方針に整合した形で知的財産活動を推進していかなばなりません。グローバル化、オープンイノベーション、AI、IoTあるいはビッグデータなどのキーワードが今期の重要課題として上がってきていると認識いたしております。特に、昨今、開発の進捗が著しいビッグデータ、IoT、AIなどは国家戦略としての強化項目でもありますから、当協会の活動においても、企業の経営に資するよう、これらに関する知的財産の保護や利活用を考えていかなばならないと考えております。

これに加えて、もうひとつ、私が重要だと考えておりますことは、やはり人材育成であります。

知的財産部門が事業戦略や経営戦略を受けて知的財産戦略をつくるということは、もはや企業における知的財産活動の1つの流れであると認識しております。私は、これからの知財パーソンは、専門性を深めながらも、一歩進んで、受身ではなく、むしろ経営トップに能動的に仕掛けていく、また、経営層も、知的財産部門から見た経営戦略をつくらせる、そういった構図ができるといいなと期待するところであります。

時代は刻々と動いております。時代の早い流れの中で、変化点をよく見ながら、当協会の提案する知的財産戦略もブラッシュアップしていければと考えております。私も新会長として、皆様方の支えの1つにでもなれるように努めたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

最後に、今後の日本知的財産協会のますますの発展を期待して、新会長のご挨拶とさせていただきます。ご静聴ありがとうございました。